

平成26年度 第1回 緩和ケア講演会のご報告

平成26年度第1回緩和ケア講演会は、4月10日に開催いたしました。出席人数は85名、うち、院内43名、院外42名でした。たくさんの方に参加していただき、大変うれしく思っています。

今年度の年間テーマは「緩和ケアにおける各種スキル ～地域における各職種のプロに学ぶ～」です。第1回目の今回は「緩和ケア病棟において頻度の高いがんについて」ということで、平成25年度当病棟の最新の統計のお話を伊藤先生よりしていただきました。最も頻度の高かった肺がんの病期や診断について、分子標的薬や化学放射線療法などの治療について、呼吸器内科の志津先生より詳しくお話していただきました。続いて頻度の高い大腸がんについて、症例を交えながら、消化器内科の西江先生よりわかりやすくお話していただきました。

アンケートでのご質問について、コメントを添えさせていただきます。

ご質問・ご意見とそのコメント

Dr.の治療=緩和ケアですか？

今回の緩和ケア講演会では「緩和ケア病棟において頻度の高いがんについて」というテーマで肺がんと大腸がんについて一般的な知識を学ぶことが目的であったため、直接緩和ケアに結びつかないかとは思いますが。様々な知識をふまえて緩和ケアをおこなっていくということで、一見緩和ケアに関係ないようでも、少しでも得るものがあることで皆様の知識が深まることを願っています。

緩和ケアセンター何名くらいのスタッフがいますか？

センターとしての専属のスタッフはいません。院長・山本師長の下には緩和ケアチームがいてセンターとしての働きを支えるという形で運用を始めていきます。

緩和ケアセンターへの電話はつながりやすいですか？

緩和ケアセンターのPHSは受付担当者が持っています。まずそこで要件を聞き、その後しかるべきスタッフに要件を伝え対応する形で運用しています。そのため、まず要件を伝えるための電話は時間内(平日9時～16時)であればいつでもつながります。時間外や文書などでのご相談の場合はファックスやメールが便利かと思います。

どの程度の便秘状態で病院へかかればいいですか？

便秘は年齢、性別、生活習慣等により変化するものなので、一概に何日間排便がなければ大腸がんの可能性があるかは言えません。排便の期間よりは、その変化がむしろ大切です。たとえば、今まで便秘をしていなかった方が急に便秘になった場合や、今まで便秘があった方でも、今まで以上に便通が悪くなる場合などです。また、便秘に伴う症状や便の性状も重要です。倦怠感や急激な体重減少、便秘・下痢の繰り返し、腹痛を伴う便秘などの症状や、便が急に細くなった、便に血液が付着するなどの便の性状の変化です。これらの所見がある場合には、大腸検査などを受けられることをお勧めします。

ご質問・ご意見ありがとうございました。今後もしどしご意見をお寄せ下さい。

地方独立行政法人 岐阜県立多治見病院

地域医療連携センター FAX: 0572-22-7948 緩和ケア内科 Mail: kanwa@tajimi-hospital.jp